

2010.11

Topix

海外派遣研修(タイ・インド) 22日間の貴重な体験

■ (独) 環境再生保全機構主催の研修

2010年8月18日～9月8日に、独立行政法人 環境再生保全機構による「海外派遣研修(タイ・インド)」が行われました。

この研修は、開発途上地域での環境保全活動に関心をもつ人たちに、海外で環境問題の実際を視察し、現地の NGO 活動に参加してもらい、わが国の環境 NGO などによる国際協力を担う人材の育成を目的としています。



タイ サンスック村にて(アカ族の子供達と)



タイ 暁の家にてアカ族の子供たちと

■ 本学の学生が選考され研修に参加

同研修に参加するには、研修意欲、環境問題に関する基本的な認識、知識、論理性、表現力、英会話能力などについて、研修生選考委員会による審査を通る必要があります。全国から66名の応募の中から7名が採用されました。本学環境教育学科の学生、仲田早織も、審査で高評価を得て採用され、22日間の研修に参加して、数多くの貴重な体験を得ることができました。

※ 暁の家について

サンスック村と暁の家(生徒寮)では、タイ北部の山間部に住む山岳少数民族の子供達の教育支援や、開発の様子を視察。

暁の家は日本人の中野穂積さんが管理している。山岳少数民族(アカ族はその中の一つ)がより良い生活をできるように、教育支援だけでなくコーヒー豆の栽培からの収入増加を目指した取り組みなど、熱心に取り組んでいる姿が印象深く残っている。

■ 参加者の感想

私は環境について考える時、開発途上国に対する興味が常にあった。先進国と対比して考えられるが、環境についての実際の現地の人々の考えや現状などを知りたいと思い、今回の研修に参加した。私はこの研修で、開発途上国の人達は環境について意識が低いという偏見を今まで持っていることに気付かされた。現地には環境に対して熱心に取り組む人達、生活と環境が直接関わって生活している人達がいた。インドではWWFの方が、先進国の環境改善について指摘していたのが強く印象に残っている。日本に居る私達は環境について直接的に考える力が、暮らしの向上と共に弱くなっていると感じた。

最後に、今回の研修に参加できて本当に良かったと思う。他方面のプロと交流できたこの経験を活かして、これから自分なりの国際協力を模索していきたい。

家政学部 環境教育学科 仲田早織



タイ バンコクのUNEP（国連環境計画）



インド CEAEに参加している高校の生徒。
手に校庭に植林する木の苗を持っている。



インド 地球環境基金が支援しているCEAE
(Center for Environmental Awareness and Education)のある高校での集会（環境教育）